

令和元年度 第1回こうべ食育推進懇話会 議事要旨

日 時：令和元年7月2日（火）
午前10時00分～11時30分
場 所：勤労会館 405 講習室

1 開 会

2 資 料

- 資料1 こうべ食育推進懇話会委員及び事務局名簿
- 資料2 こうべ食育推進懇話会開催要綱
- 資料3 神戸市における令和元年度の主な食育推進事業
- 資料4 令和元年度版 ライフステージ別 神戸市における主な食育の取組
- 資料5 神戸市における令和元年度の主な食育推進事業（ダイジェスト版）
- 資料6 次期神戸市食育推進計画（第4次）の策定の方向性について
- 資料7 「市民の食育に関するアンケート調査」（仮称）の実施について
- 資料8 “ ” の項目案
- 資料9 ～健康創造都市 KOBE 関連イベント～第16回こうべ食育フェア開催報告
- 資料10 ～健康創造都市 KOBE 関連イベント～第16回こうべ食育フェア当日チラシ

参考資料 学校給食だより 6月号 [教育委員会事務局]
MY CONDITION KOBE チラシ [保健福祉局健康政策課]

3 議 題

（1）神戸市における令和元年度の主な食育推進事業

- ・事務局から、「神戸市食育推進計画（第3次）」施策の柱（Ⅰ～Ⅵの施策）ごとに、資料3、5に基づいて取組み事例を説明
- ・事務局から、資料9、10に基づいて「第16回こうべ食育フェア」の開催報告

○ 質問・意見等

- ①オーラルフレイル対策の研修事業の対象、具体的内容を知りたい。（委員）
⇒オーラルフレイルチェック従事者（歯科医師会の歯科医師や歯科衛生士会の歯科衛生士）対象である。チェック事業では、口の乾燥チェック、滑舌チェック、舌圧チェック、咀嚼チェックを行っている。（事務局、委員）
- ②学校給食だよりの裏面（献立表）は、子ども又は大人のどちら向けなのか。ふり仮名がないので低学年の児童は読めない。子ども向けのスペースにはイラストを入れてはどうか。（委員）
⇒給食だよりは保護者向けに作成しているが、子ども向けの内容もある。ふり仮名の記載については、スペースの都合もあるが、ご意見として承る。（事務局）
- ③中学校給食アンケートが先日あり、保護者の声に挙がっていたことであるが、中学校給食は弁当

方式での提供のため、「給食」から想像するイメージと異なり、損している印象がある。名称変更してはどうか。「学校ランチ」でもよいのでは。(委員)

⇒喫食率は下がってきている。アンケートをもとに改善していく(ランチボックスの変更、おかずをレトルト食品にして温かいものを提供するなど) 予定であるが、経費等も含めて総合的に判断していく。(事務局)

④フードドライブで回収した食品は最終的にどこに提供されるのか。(委員)

⇒NPO法人のフードバンク関西が実施(ボランティアにより実施)。従事者の帰路にある子ども食堂などにも寄附しているため、市外への寄附もある。今後は、社会福祉協議会などと協力して、安全性を担保しながら市内へと広めていきたい。(事務局)

(2) 次期神戸市食育推進計画(第4次)の策定の方向性について

- ・事務局から、資料6に基づいて説明

○ 質問・意見等

(委員より)

- ・神戸市は「モダン」「新たな取組を先行して行う」という魅力的なイメージがある。しかし、それが全ての市民に届いているか、伝わっているかが懸念される。先進的な人や関心の高い人には見てもらえるが、インターネットやスマホもまだまだ普及していない世代や層もある。こうべ食育フェアには1万人も来場があり、多くの人に関心をもっているのがわかる。
- ・課題の③の「世帯構造や社会環境の変化に対応し、多様な暮らしに配慮した健全な食生活の確保が必要」のところが非常に重要だと思う。ある調査によると、小・中学生のゲームの時間が増え、就寝時間が遅く、朝食を十分に食べていないという結果があり、地域や家庭環境による差が顕著に出ている。食育の問題に限らないが、家庭環境など多様性の部分に、行政等がどう入りこんでいけるかが重要である。
- ・SNSを使った啓発事業もよいが、よい情報とよくない情報が混在しており、そこにどう対処していくか。
- ・大学生でも、学部により、健康や食事に対する意識の違いが大きいと感じる。しかし、これは感覚的なものなので、きちんとした調査を行い、その結果に基づき実施し、効果を評価できる仕組みが重要である。
- ・SNSの狭い世界だけでなく、農業などの体験を通じたつながり、地域全体で交流する大切さ、ニーズはあると思う。
- ・食育推進計画のなかに飲酒・たばこ・運動などの健康面も盛り込んでほしい。
- ・一つひとつの目標にどう到達させるかが一番大事だと思う。
- ・大学生を対象に、地域の伝統食に対する意識や栄養バランスのとれた食事をしているかについて調査した。この大学生の結果と50代を比較すると、意識に大きな差があることがわかった(20代の結果が悪かった)。また、最近は男性1人の買い物客が増えており、その買い物内容も心配な方がいる。高齢者であれば行政福祉で、働く人であれば雇用主・事業者などで対応できればよいが。神戸ならではの人のつながり、事業者や学校園でのつながりなどをとらえ、関心の低い人やSNS等へアクセスできない人などもとりこぼしのないよう網目を張ることが大切である。
- ・客体から主体者へ変えていくことが大事である。多部局で連携し進めてほしい。

- ・数年前から、親子児童クッキング事業を行っているが、実践・体験型が重要だと感じる。こうべ食育フェアでも、コンピュータで栄養価がでる「食事診断 サツとシステム」を行うと、多くの参加があり、ほかの地域でも広がってきている。
- ・食の大切さを全世代へ、体験を通して広めていってほしい。
- ・ファーマーズマーケットにて、親子対象にわかめの株付け・収穫体験を行った。ふだんは野菜嫌いの子どもが、新鮮なわかめだとおいしいと食べていた。このような体験が食育を推進する上で大切だと思う。

(委員)

- ・子ども食堂は、食育を連続して体験できる貴重な場であると思う。しかし、保護者としては、知らない人が行っていると不安もあり、せっかく立ち上げて子どもが来ない事例もある。普段からの地域でのつながり、知っている人が行っている安心感が大切である。

(3) 「市民の食育に関するアンケート調査」(仮称) の実施について

- ・事務局から、資料7、8に基づいて説明

○ 質問・意見等

①個人情報と紐付けされるのか。また、前回までは郵送回答方式で今回からインターネット回答方式へ変更するに当たり、互換設定など回収率の想定はどうしているか。インターネットを利用している人は意識の高い人が多いのではないかと思うが。(委員)

⇒無記名で行うので、個人は特定されない。また、回収率については、資料7裏面のチェックリスト等に基づき、留意しながら実施していく。(事務局)

②問2に「家族や友人と楽しく食卓を囲む」とあるが、家庭での食事のみを指すのか、友人との外食も含まれるのかどちらの意味か。(委員)

⇒外食も含めてである。(事務局)

4. 閉会